

Question

「私自身もiPhoneを使用しており、このような機能が備わっていることは耳にしたことがありましたが、使用法など教わり実際に触ってみるのは初めてでした。web講演会後に教わった機能を早速使ってみました。どのような場面での使用がおすすりめなどあれば教えていただきたいです。」

例) カメラアプリ

- 近見を拡大縮小して、文字の読み書き (近見での利用)
- 遠見のものを見る (遠見での利用)

→視覚障害者が遠見を見る場合、眼鏡や単眼鏡 (右図) を用います。カメラアプリで投影してバスや電車の時刻表、看板等を確認する際にも利用できる。撮影して拡大することもできる。、特に中心視野に異常のある方に便利



単眼鏡

例) アクセシビリティの「ズーム機能」

• ズーム機能 →

① (写真画像での拡大の補強)

通常、写真やWEBサイトを拡大する時、二本指で挟んだり、摘んだりして(=ピンチイン、ピンチアウト)して画像を拡大・縮小します。これに「ズーム機能(3本指Wタップ)」組み合わせると、更に拡大されます。

② (拡大できないコンテンツの拡大)

ホーム画面や固定表示のアプリでは、二本指では拡大できない画面もあるため、「ズーム機能」を使用すると、文字や画像が拡大できます

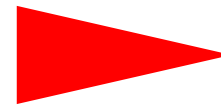
具体的な使用例

文字情報を拡大するのにも使用しますが、画像拡大したい方が多いです。

「お孫さんの顔が見たい」

「風景を見たい等」

「過去の写真を見たい」



例) アクセシビリティの「拡大鏡」

カメラアプリとの違い…自分の見やすい「明るさ・コントラスト・配色等」で拡大縮小できる。

- ・カメラアプリはアプリを一旦終了すると、拡大機能や明るさ調整はリセットされますが、「拡大鏡」は終了して、再度起動しても前回設定した状態で維持される。※調整の手間が省ける

- ・小児においては、読み書き障害等の発達障害においては、配色（赤や青などのフィルター機能）を有効にすると見やすい事がある。

具体例)

- ・重度の視力障害の方。
 - ・小児の視覚障害の患者さん（読み書き障害等）
 - ・据え置き型拡大読書器を使用しているが、外出先でも使用したい方
 - ・身体障害者手帳に該当されない方
 - ・眼鏡やルーペでは見えづらい方。
- ※特に中心視野に欠損がある方。